

1. レジ袋削減への取組の経緯

- ・ 横浜市中区の関内地区において、対象地区内のコンビニエンスストアと事業所の協力を得て、コンビニエンスストアでの買い物において、利用者にレジ袋と割り箸の辞退を呼び掛ける取組を実施している。
- ・ 地区内で取組に賛同いただいた事業所では、職場の従業員にコンビニエンスストアでの買い物において「レジ袋はいりません」、「割り箸はいりません」と表明してもらい、運動参加の意思表示となるバッジも活用してもらっている。
- ・ また、コンビニエンスストアでは、お店の方から声掛けを行うほか、ステッカー、バッジなどにより、各店舗で協力を呼びかけてもらっている。
- ・ さらに、この取組に参加してもらえる関内周辺の事業所の募集を行うとともに事業所へ賛同の呼びかけを行っている。
- ・ この取組は、日本フランチャイズチェーン協会に横浜市が相談を持ちかけたことで、実現したものである。いくつかのコンビニエンスストアと打ち合わせを行う中で、横浜市と個々のコンビニエンスストアでの取組とするより、業界団体からの依頼で行う取組であるほうが、着手しやすいとの意見があったため、横浜市から日本フランチャイズチェーン協会に話をもちかけた。
- ・ 平成 23 年 1 月に、日本フランチャイズチェーン協会から横浜市へ横浜市「オフィスでもマイバッグ・マイ箸宣言」参加申出書が提出され、平成 23 年 4 月より、関内地区でのレジ袋や割り箸の削減に取り組んでいる。

この「オフィスでもマイバッグ・マイ箸宣言」は、ごみの分別を通じてごみ排出量削減を目指した G30 の取組が平成 22 年度をもって終了し、平成 23 年 1 月に新しい横浜市一般廃棄物処理基本計画「ヨコハマ 3 R 夢(スリム)プラン」が策定されたのを機に、平成 23 年 4 月からリデュースに寄与する取組として、着手した。

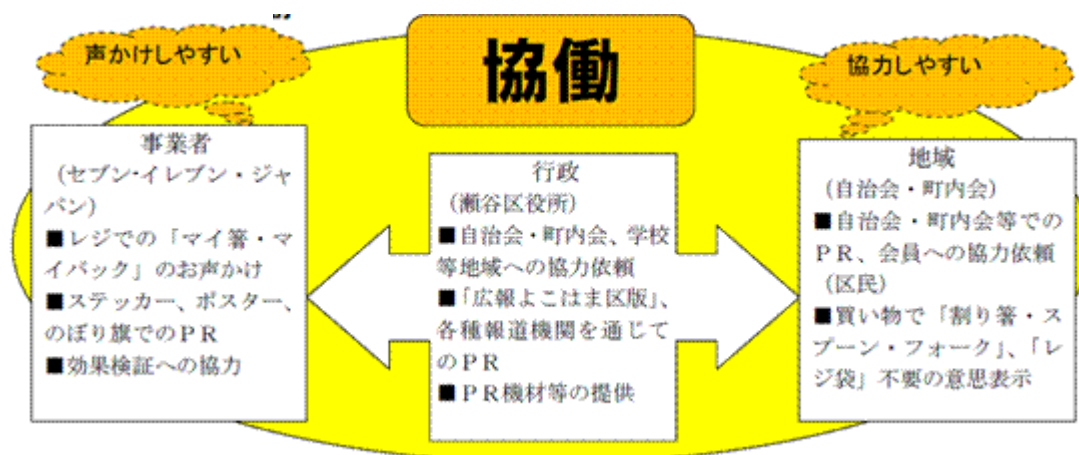
- ・ スーパーマーケットではなく、コンビニエンスストアに着目した理由として、スーパーマーケットで配布されるレジ袋は、一定の大きさがあるため、家庭等に持ち帰った後にゴミ袋等としての利用が可能であり、実際に市民の中にもゴミ袋として使用する人も少なくないのに対し、コンビニエンスストアで配布されるレジ袋の多くは小さめのものが多く、レジ袋として使用した後は、ゴミ袋として有効利用されず、ゴミとして捨てられてしまうことが多い点が挙げられる。すぐにごみになってしまうレジ袋なのであれば、

お店でできるだけ配布しない、来店客もできるだけもらわないようにすることが望ましいと考えられ、横浜市のリデュースへの取組の一環として、コンビニエンスストアで配布されるレジ袋をターゲットに取組を行うに至った。

- ・ 関内地区は、市役所、中区役所が所在するほか、オフィスビルに多数の企業が入居している。そこで、関内地区のまちづくり協議会のような会合等に市から声かけ等を行い、地区内の事業所に日常的にマイバッグを置いてもらい、コンビニエンスストアでの昼食等の購入時にオフィスからマイバッグを持参し、レジ袋を断ることで、レジ袋使用量の削減に協力してもらうよう呼びかけている。

2. レジ袋削減対策の評価

- ・ リデュースの取組は、消費者の意識、行動を変える取組でもあるため、成果が上がるまでには時間がかかると感じている。
- ・ 横浜市内におけるレジ袋の辞退率の数値については、把握できていないが、神奈川県のリデュース実行委員会の報告によると、神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言に賛同したスーパー等を含む事業者（24年10月現在：159社・団体1012店舗）の平成23年度のレジ袋辞退率は、約31%となっている。
- ・ 市としては横浜市全域にマイバッグ持参等の取組が普及拡大していけばよいと考えているが、現状は関内地区での実施にとどまっており、神奈川県の実感としてのレジ袋削減効果が感じられていないため、取組はやや不十分と感じている。
- ・ ただし、横浜市と地域活性化包括連携協定を結んでいる㈱セブン-イレブン・ジャパンが瀬谷区と協働し、暮らしに身近なコンビニエンスストアで、「せや3R夢（スリム）！マイ箸・マイバックアクション」を平成25年3月1日からスタートさせた。今後、セブン-イレブン・ジャパンと連携した区民のマイバッグ持参への取組が横浜市全域に拡大することが期待できる。



(出典) 横浜市記者発表資料「(株) セブン-イレブン・ジャパンと瀬谷区 ごみ減量でタッグ」(平成 25 年 2 月 21 日、瀬谷区地域振興課)

3. 国への意見・要望

- ・ コンビニエンスストアでのレジ袋使用量削減に寄与した事業者に対して、何らかのインセンティブを与える仕組みが導入されるとよい。レジ袋使用量削減に寄与した事業者への経済的インセンティブの付与が難しいようであれば、国による何らかの表彰制度を作ってもらってもよい。(ちなみに、横浜市では、事業系ごみの排出抑制や分別排出等に顕著な功績のあった事業者等に対して 3 R 活動優良事業所として認定を行っている)
- ・ 横浜市では、レジ袋削減に加え、簡易包装の推進、マイボトル・マイ箸利用の推進、区民まつり等のイベントでの飲食物提供時におけるリユース食器利用等も、リデュースへの取組の一環として取り組んできている。簡易包装の推進については、イオンと地域活性化包括連携協定を締結し、平成 24 年 6 月に市内のイオン 6 店舗と連携し、ノントレイ商品や詰め替え商品の周知、買い物を通じたリデュースへの貢献可能性の周知を目指した簡易包装キャンペーンを実施した。マイボトルの推進に関しては、市が取り組んでいるマイボトルスポットに登録していただいた店舗等を市民に紹介するとともに、マイボトルスポットでの啓発イベントを協力店舗等と実施している。消費者のライフスタイルの転換に向けては、小売店等の協力が必要不可欠と考えており、小売店との協定締結を通じた取組の実施例や小売店等の協力を得て消費者のライフスタイルの転換に成功した事例等の全国レベルでの収集、全国への情報の還元をしてもらえるとうよいのではないかと。

「マイボトルスポット」で、お手持ちのマイボトルに飲み物を！

平成 22 年 10 月に試行的に 4 か所で開始した「マイボトルスポット」。徐々に数を増やし、今年の 2 月には（公財）横浜市緑の協会管理施設 13 か所が参加！散策が気持ちいいこの季節、山手西洋館やズーラシアなどへお出かけの際には、ぜひマイボトルスポットをご利用ください。また、この 4 月には、マイボトルに対応しているチェーン系カフェ 5 ブランド（市内 計 80 店舗）もマイボトルスポットに登録！マイボトルスポットが 104 か所に増えました。今後も、マイボトルがより便利に使える街になるよう、スポット数を増やしていきます。

【4月からマイボトルスポットに登録したチェーン系カフェ】



スターバックス



「マイボトルスポット」とは？ 多くのスポットで、マイボトル割引実施中！ ※詳しくは、添付のチラシをご覧ください。

マイボトルスポットとは、飲みものを、持参したマイボトルに入れて販売・提供する店舗等のことで、横浜市独自の名称です。

マイボトルが空になったらマイボトルスポットへ。

マイボトルを活用していくことで、ペットボトルなどの使い捨てを減らしていくことができます。

マイボトルで飲みものをおいしく楽しみながら、ごみを減らしていくライフスタイルを広げていきませんか？



マイボトルスポット
マーク



ペットボトルの
国民1人あたり
平均年間使用量



500ml
ペットボトル
約180本分*

ヨコハマひろばウェブサイト
内、マイボトルスポットのホーム
ページもぜひご覧ください！

マイボトルスポット

検索

(出典) 横浜市記者発表資料「マイボトルスポットが 104 か所に拡大」(平成 24 年 4 月 26 日、資源循環局 3 R 推進課)